



(様式1)

令和7年度「ふるさとの学び特別賞」応募票

学校名 勝山市立勝山中部中学校

1. テーマとアピールポイント

テーマ

「うちら」の探究2025 ～<sup>ここ</sup>勝山から歩き始める～

アピールポイント

生徒たちの「このようなことをしてみたい」という思いから、3年間、ふるさとに関わる学習活動に継続して取り組んでいる。1・2年時は、地域のフィールドワークやイベントへ参加等を通して、地域の課題解決に向けた取組みを数多く行ってきた。2年間の取組みを生かし、3年時は自分たちの手で地域活性の一躍を担おうと、地域の方々に学校祭に来てもらう様々な企画を立案し、数多くの方に来校いただいた。これらのふるさと学習の集大成として、今後も自分事として地域課題に向き合い、ふるさとを大切に思う生徒を育むため、キャリア教育と結びつけて一人ひとりの興味関心に基づいた課題を設定し、個人探究を進めている。

2. 活動内容

(1) 対象学年、生徒数

3学年、62名

(2) 取組内容 (※下線部は、生徒の発意・発案による活動)

【1年時】

- ①「わたしたちが残したいもの」各小学校で取り組んできたふるさと学習の内容を紹介した後、とっておきの「わたしたちが残したいもの」を見つめ直した。それぞれが残したいと考えた施設や環境に関わる地域の方々にインタビューをしたり、現地を見学したりする活動を実施。それらを通して勝山の課題を学年全体で共有した。その後、その解決に向け、鯖江市での校外学習を実施。市役所へ市の取組みについて視察したり、市内の企業等でインタビュー活動を行ったり、まちづくりについて学んだ。
- ②「勝山〇〇まち化計画」①の活動を通して、将来の勝山をこんなふうにしたいという願いをもった生徒たちは、鯖江市が「〇〇のまち鯖江」としてまちづくりを行っていることを自分たちでもやってみたくて、新しい「〇〇のまち勝山」にするための具体的な戦略を練った。各グループが考えたことを保護者の前で提案し、いただいた意見をもとに練り直した。さらに、「〇〇まちコンペ」と称して、プレゼンテーション協会代表理事・前田鎌利氏を前にプレゼンし、まちづくりへの思いを強くした。

【2年時】

- ③「まちづくりカンパニー」1年時に人の輪を広げた生徒たちは、勝山を盛り上げる地域貢献活動を行おうと、3つのグループに分かれて企画し挑戦した。PR部は、パンフレットを作成し、遠足訪問先の金沢で、自作のパンフレットを用いて勝山市の行事や施設を紹介したり、左義長ばやしを披露したりして、勝山の魅力をPRした。企画体験部は、勝山の魅力を体験してもらうイベントを企画し、7月には校区のとうもろこし祭り、8月には勝山地区夏祭りに、勝山ならではの体験ブースを出店した。ふるさと発掘部は、これまで以上に地域の人や企業について知り、自分たちで、まちづくりに尽力されている方を「ようこそ先輩」にお呼びする講師として選び、依頼した。これらの活動を通して、さらに勝山を盛り上げるためのアイデアを考え、学校全体に提案した。

[3年時の活動につながったその他の活動]

- 「うちの中部中実行委員会」(うちちゅ〜) 2年時後半からの1年間に予定されている5つの学校行事を自分たちの企画で創り上げていこうと、希望する行事の実行委員会に全員が参画した。学校祭実行委員もこの実行委員会の1つである。
- 「まちカンチャレンジランキング」勝山夏祭りで生徒たちの活躍を見た、かつやま地区まちづくり会館から、12月中旬に行われる小学生向けの体験イベントを企画してほしいという依頼を受け、チャレンジランキングを企画。土曜日開催にも関わらず、多くの生徒が当日の運営に参加し、お店を運営したり児童を案内したりした。
- 自らのキャリアを考えていく学習(2年時:よろこ先輩、職場体験学習(3日間)、立志祭)

### 【3年時】

④地域の方々を学校祭に招待しよう 地域に出向くのではなく、自分たちが企画運営するところへ地域の方々に来てもらって楽しい時間を提供したいと、学校祭実行委員が学年全体に提案した。時間、場所、予算等、様々な制約がある中で何ができるか、全員で案を出し合い、その中から実現可能なものを教員と相談しながら選択し、グループに分かれて企画運営を行った。予算については、限られた予算をどう使うか、各グループで購入に必要な金額を申請し、執行部と予算折衝をし、他グループと折り合いをつけながら決定した。生徒たちは、タブレットでPR動画を作成し校区の小学校に配信してイメージをつかんでもらった後、各学校へ出向き、作ったパンフレットを配布して学校祭の内容を紹介した。当日は、校舎案内図を作成して各会場へ案内したり、小さな子も怖がり過ぎないお化け屋敷を企画したり、休憩スペースでジュースをふるまったり等々、「まちづくりカンパニー」等で学んだスキルを生かし、自分たちのアイデアが詰まった学校祭となった。当日は予想を上回る数の方々が来校し、「中学校卒業後以来、久しぶりに校舎に入った。もうすぐ統合でこの学校に入ることもできないから、このような機会があって嬉しかった。」等の声をいただいた。

⑤「ふるさと×自分×ウェルビーイング」これまで数多くの地域貢献活動に携わってきた生徒たちであるが、いずれも、やりたい活動内容が同じ仲間とグループを組み、複数人で取り組んできた。3年時後半は、一人ひとりが自分を見つめ、これからの生き方を考える時期である。そこで、ふるさと学習を基盤としキャリア形成を図っていくことを目的に、個人探究活動に取り組むこととした。自らの興味関心があることや将来の夢とこれまでのふるさと学習の成果とをどう結びつけていくのかを、探究を通して考える活動とした。これからの生き方が、独りよがりではなく社会全体の幸福につながっているかという視点も大切に、個人探究課題を設定した。各生徒は、地域の商店に出向いたり、企業の方々へアポをとってメールや電話で質問したり、学年全体に意向調査を行ったり、制作活動に取り組んだりしている。探究活動後は、考察しまとめる活動を経て、下級生や保護者、市内の関係者に探究の成果を披露する予定である。

### 3. 年間活動実績 (12月以降の予定を含む)

- |      |  |
|------|--|
| 6月   | うちちゅ〜学校祭実行委員会による、学校祭企画の概要説明と企画案の募集                         |
| 7月   | 企画案の決定、グループにわかれての準備活動                                      |
| 9月   | グループにわかれての準備活動、校区の小学校への呼びかけ、学校祭実施                          |
| 10月  | 「ふるさと×自分×ウェルビーイング」2年間半の活動の振り返り、自分を見つめる活動、個人探究テーマの設定、活動計画作成 |
| 11月～ | 4つのゼミにわかれ、個人探究活動(10時間)、ゼミ内での中間発表                           |
| 2月   | 探究内容のまとめ、発表準備  |
| 3月   | 発表会  |